

「りり子で友だちの輪を広げよう」 大作戦Ⅲ

福井県大飯郡おおい町立本郷小学校
特別支援学級(6名)
村松先生・岩崎先生・見城先生

活動のきっかけ

2、3年前からりりこの苗を郡内の特別支援学級に数本ずつお裾分けし、その成長から収穫に至るまでの活動を報告する、リモート交流会を続けてきた。今年度もりりこを共通の話題にして、自分たちの体験を報告、交流することで話したり聞いたりすることが苦手な子どもたちも積極的に活動できると考えた。

活動のねらい

- ・りりこを大切に栽培する体験を通し、収穫の喜びを味わう。
- ・栽培や調理活動などを通し、自分の思いを表現したり、他校の友達とコミュニケーションを取ったりして、交流を広げる。



活動の概要と流れ

- | | |
|-----|--|
| 4 月 | <p>花壇の整備</p> <p>・りりこの苗プレゼント企画と手紙の作成・苗植え
余ったりりこの苗を他校の友達にプレゼントするために手紙を書いて一緒に届けた。りりこ数種類の夏野菜を植え、栽培活動をスタート。</p> |
| 5 月 | <p>野菜の世話</p> <p>・野菜の観察・芽かき・リモート交流(小浜市3校)
毎朝、水やりをしながら野菜の成長を観察し、脇芽が出たら芽かきをするようにした。
苗をプレゼントした学校とリモート交流し、少し成長したりりこに花が咲きだしたことを確認し合った。</p> |
| 6 月 | <p>野菜の世話</p> <p>・リモート交流(S小学校)から「かかし作り」
りりこの実がなり始めた。今年も尻腐れ症が発生したり、動物につつかれたりした。そのことを近隣のS小にリモート交流で伝えたところ、同じ悩みを抱えていることがわかり、その予防策にかかしを作ったと聞いた。本校の児童が「僕らも作ろう!」と発言し、すぐに実行に移すことになった。作り方を調べたり、材料を集めたり、自分たちでできることから始め、なんとか完成することができ、畑に設置した。</p> |



野菜の収穫

・「りりこパーティー」

7 月

成長したりりこを収穫し、冷凍保存した。
 収穫数は表を作り、全校に見てもらえるように掲示した。
 収穫したりりこは、昨年、小浜市の学校から教えてもらった「りりこカレー」を作りたいという希望があったため、メニューに悩むことなく調理を実施した。
 レシピを見ながら、高学年が低学年の面倒を見るなど、協力しておいしい「りりこカレー」ができた。

合同学習会(町内の学校4校でりりこ発表会)

・調理「りりこカレー」作り

9 月

7月に作った「りりこカレー」がおいしかったことから、合同学習会でみんなと『りりこカレー』を作りたいという思いが高まった。
 そこで、調理経験のある本校児童が他校のみんなに作り方を説明することにした。一度調理経験があることから、皮むきや・炒める・煮るなど、みんなのモデルとなった。
 たくさんの友達と一緒に食べる「りりこカレー」は格別であった。



調理実習メニュー

・りりこカレー



活動を通して得られた成果

りりこを共通の話題にして、郡内・他市町の学校(特別支援学級)の子どもたちと交流を広げて3年が経つ。

体験的活動を経験した後は、話すこと・聞くことに苦手意識のある子どもたちも、自分から話そうとしたり、いつもよりつづやきが増えたりすることが、この3年間の活動の様子から予想された。

そこで、他校から聞いた野菜を守るために、かかしを自分たちでも作ってみたり、郡内で集まる合同学習会で4年ぶりに調理実習を計画し、各校で育てたりりこを持ち寄って「りりこカレー」を調理する体験的活動を設定した。どちらの活動も、これまで続けてきたリモート交流の中で、子どもたちの「やってみたい」という声からスタートした活動である。

そのため、子どもたちの意欲はもちろん、子ども同士のやりとりもいつもより活発であった。中には、学校での活動の様子を家庭で話し、家族に相談したり、さらに担任にもその話を伝えてくるなど、一つの活動がどんどんつながり、子どもの「やってみたい」という気持ちがどんどん高まっていく喜びも味わえた。

今回のりりこも学習に大変有効に活用できたことが、ありがたかった。

受賞理由

他校とのリモート交流で耳にした栽培の工夫をすぐに取り入れて、かかしを自分たちの手で作成するなど、子どもたちの「やりたい！」気持ちを伸ばす活動には、先生方の子どもたちへの温かい眼差しを感じます。栽培から調理活動までの約半年間には子どもたち同士のコミュニケーションが活発になったとのこと。凜々子をきっかけに、子どもたちがお互いに向き合い、思い合い、交流につながったことを嬉しく思います。